

代幾 I 演習 (2005/06/02)

問題 72 A を実数を成分とする二行二列 (二次の正方行列)、 x, y を二次元 (平面) の縦ベクトル、 c を実数とすると、次の線型性が成立することを示しなさい。

$$A(x + y) = (Ax) + (Ay)$$

$$(cA)x = A(cx)$$

(ヒント: 行列 A 並びに、ベクトル x, y を成分表示し、等号の左辺と右辺の結果が同じであることを示せばよい)

問題 73 二つの二次の正方行列 A, B に関して、行列間の等号「 $A = B$ 」を、「 $\forall x \in V^2$ s.t. $Ax = Bx$ 」で定義する (つまり、「任意の平面ベクトル x に対して、 $Ax = Bx$ が成立」した時に、「 $A = B$ 」とする)。この時、行列 A, B の成分に関して、次の性質が成り立つことを示しなさい。

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}, B = \begin{pmatrix} e & f \\ g & h \end{pmatrix} \text{ に対して、} A = B \Leftrightarrow \begin{cases} a = e \\ b = f \\ c = g \\ d = h \end{cases}$$

(ヒント: 左から右 (\Leftarrow) は、単に、 x, y を成分表示し、その計算結果を比較すればよい。逆 (\Rightarrow) も、同様に行っても良いが、特別なベクトル $e_0 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, e_1 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ に関しても、 $Ae_0 = Be_0, Ae_1 = Be_1$ が成立することを利用した方が簡単になる)

問題 74 次のベクトルへの射影子を、それぞれ求めなさい。

$$1. \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad 2. \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad 3. \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad 4. \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

問題 75 互いに直交する 0 でない二つのベクトル x, y に対し、それぞれへの射影子を、 P_x, P_y で表すとする。この時、次の等式を証明しなさい。

$$1. P_x x = x, P_y y = y$$

$$2. P_x y = P_y x = O = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

$$3. P_x + P_y = E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$4. P_x \cdot P_y = O = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

(ヒント:この二つのベクトルは、独立なので、任意の平面ベクトル z が、実は、ある実数の組 a, b を用いて、 $z = ax + by$ と表されることを利用すれば...)

問題 76 行列 $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$ の逆行列 A^{-1} が次の形

$$A^{-1} = \frac{1}{ad - bc} \begin{pmatrix} d & -b \\ -c & a \end{pmatrix} \quad (\text{ただし、} |ad - bc| \neq 0 \text{ の時})$$

で表されているとする。

この時、二つの変数 x, y に関する、次の連立方程式

$$\begin{cases} ax + by = e \\ cx + dy = f \end{cases}$$

について、次の問に答えなさい。

1. $AA^{-1} = A^{-1}A = E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ であることを示しなさい。
2. 上記の行列 E は、任意のベクトル z に対して、 $Ez = z$ となることを示しなさい。
3. 行列 A , ベクトル $z = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$, $p = \begin{pmatrix} e \\ f \end{pmatrix}$ を用いて、上記の連立方程式を表しなさい。
4. もし、行列 A が、逆行列を持つ (すなわち、 $|ad - bc| \neq 0$ の時) 場合、 $A^{-1}p$ が、上記の連立方程式の解となることを示しなさい。
5. 連立方程式

$$\begin{cases} au + bv = 0 \\ cu + dv = 0 \end{cases}$$

の解 $w = \begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix}$ を考える。すると、もし、 z が元の方程式の解ならば、 $z + w$ も、元の方程式の解になることを示しなさい。

6. 上記の性質を利用して、元の連立方程式が、唯一の解を持つならば、後の連立方程式は、 $w = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ 以外の解を持たないことを示しなさい。